

令和7年度

1学年

シラバス

令和7年度 シラバス

学年	クラス	教科(科目)	単位数				
1	1~6	国語(現代の国語)	2				
教科書		副教材					
第一学習社「現代の国語」		第一学習社「カラー版新国語便覧」・桐原書店「新演習現代文アチーブ1」					
学習の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>						
評価の方法	①知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度				
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。				
学習計画及び評価方法							
学期	月	単元名	項目	学習活動と評価のポイント	評価方法		
					①	②	③
第1学期	4	対比構造を学ぶ	水の東西	・東西の対比関係を用いながら、日本の水文化に見られる特徴について論じる叙述の方法を把握する。	○	○	○
	5		「間」の感覚	・文章を分析的に読み、対比構造を用いた論理の展開について理解する。	○	○	○
	6	論理分析(具体と抽象)	ものことば	・具体(例示)から抽象(意見)の関係を整理した上で、接続詞に注目し、一般的な概念とは異なる筆者の主張を理解する。	○	○	○
	7	論理的な表現を学ぶ	羅生門	・下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取るなどして、自分の意見や考えを論述し、発表する。	○	○	○
	8	わかりやすい伝え方を学ぶ	・話し方の工夫 ・論理的な表現	・近代の文章と古典の文章を比較し、その違いを考察し、発表する。	○	○	○
第2学期	9	要旨を把握する	無彩色の色	・ネズミ色のイメージをマイナスからプラスに転じる論展開と、筆者が論拠としてあげる事例を把握する。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。	○	○	○
	10	具体例を通じて主張を捉える	現代の「世論操作」	・情報操作の具体例を通して筆者が提起する課題を理解し、メディア社会に生きる者として問題意識を持つ。	○	○	○
	11	論点を共有して話し合う	フェアな競争	事実説明や意見に対して、賛否の両面を考えて、文章にまとめ話し合うことで、妥当性を吟味し、判断を下す。	○	○	○
	11	自分の意見や考えを論述する	夢十夜	「夢」という非日常性を持った世界において「自分」は何を判断の根拠にしているかを読み解き、自分の意見を論述する。	○	○	○
	12	意見文とは何を学ぶ	・書き方の基礎レッスン ・社会に対する意見文を書く	・表記・表現の基本ルールを理解する。 ・接続表現の種類や用法を理解する。 ・意見文とはどのようなものかを理解する。 ・自分の経験の中から意見を導き出せるようになる。	○	○	○
第3学期	1	例示の意図を理解する	ロビンソン的人間と自然	・「ロビンソン・クルーソー」を例として取り上げた筆者の意図を理解したうえで、主張を把握する。	○	○	○
	2	批評とは何かを学ぶ	現代日本の開花	・筆者の西洋と日本の捉え方の違いを通じ、近代という時代への理解を深める。 ・批評文とはどのようなものか理解する。	○	○	○

令和7年度 シラバス

学年		クラス		教科(科目)		単位数	
1		1~6		国語(言語文化)		3	
教科書				副教材			
数研出版「言語文化」				第一学習社「新国語便覧」・尚文出版「古典常識も学べる新明説総合古典文法」 「古典常識も学べる新明説総合古典文法ノート」・桐原書店「漢文必携五訂版」 「漢文必携五訂版チェックノート基本編」・尚文出版「基礎古文」「基礎漢文」			
学習の目標		生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に表現し的確に理解する能力を育成して心を豊かにする。「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしできるようにする。言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとするとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使うことができるようにする。					
評価の方法		①知識・技能		② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
		生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。		言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。	
学習計画及び評価方法							
学期	月	単元名	項目	学習活動と評価のポイント	評価方法		
					①	②	③
第1学期	4	古文説話	宇治拾遺物語「児のそら寝」	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。人々が説話を伝えようとした理由を粘り強く分析し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	○	○	○
	5		「絵仏師良秀」		○	○	○
	5	漢文	入門一	自国の言語文化の特質や外国の文化との関係について理解し、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自分の考えをもっている。漢文に由来する語句などで、積極的に自分の考えを説明しようとしている。	○	○	○
	6		入門二		○	○	○
	6	漢文故事	戦国策「漁夫之利」	自国の言語文化の特質や外国の文化との関係について理解し、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自分の考えをもっている。故事成語の用例を調べて発表する課題において、粘り強く用例調査に取り組んでいる。	○	○	○
韓非子「矛盾」 戦国策「狐借虎威」			○		○	○	
		古文随想	徒然草「ある人、弓射ることを習ふに」 「奥山に猫またといふものありて」	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	○	○	○
特編	7	古典文法	古典文法(助動詞)	学んだ文法事項を、作品の読解に生かそうとしている。	○	○	○
第2学期	9	漢文史伝	十八史略「管鮑之交」	作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。「読むこと」において、成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って調査・発表に取り組んでいる。	○	○	○
			十八史略「先従隗始」		○	○	○
	9	古文歌物語	伊勢物語「芥川」	古典の世界に親しみ、読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。地の文と和歌の関係性を読み解き、本文全体を解釈しようとしている。	○	○	○
			「東下り」		○	○	○
	10	漢詩	「静夜思」「送元二使安西」「月夜」 「八月十五日夜、禁中独直、对月憶元九」	我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。由来について諸説ある漢語の語源説を調べる活動において、粘り強く調査に取り組んでいる。	○	○	○
11			古文歌物語	伊勢物語「筒井筒」	古典の世界に親しみ、読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。地の文と和歌の関係性を読み解き、本文全体を解釈しようとしている。「筒井筒」と「沖つ白波」の違いを抽出し、学習課題に沿って文章評価についての話し合いに参加しようとしている。	○	○
	大和物語「沖つ白波」 伊勢物語「あづさ弓」	○		○		○	
特編	12	古文物語	枕草子「中納言参り給ひて」	古典を読むために必要な文語のきまりなどについて理解している。作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。作品を通して、敬語表現を理解しようとしている。	○	○	○
		古文文法	古典文法(敬語)	○	○	○	
第3学期	1	思想	論語	我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。当時の諸子百家の考え方、物事の捉え方への理解を深めようとしている。	○	○	○
			孟子		○	○	○
	2	軍記物語	「木曾の最期」	軍記物語特有の文体に親しもうとしている。	○	○	○
日記文学			土佐日記「門出」	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。旧暦や古時刻、旧国名といった古典常識について積極的に調べ、学習課題に沿って理解を深めようとしている。	○	○	○
特編	3	日記文学	土佐日記「帰京」	和歌特有の表現技法を理解しようとしている。和歌を粘り強く読み解き、学習の見通しをもって主題について考察しようとしている。	○	○	○
特編	3	和歌	「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」	和歌特有の表現技法を理解しようとしている。和歌を粘り強く読み解き、学習の見通しをもって主題について考察しようとしている。	○	○	○
					○	○	○

令和7年度 シラバス

学年	クラス	教科(科目)	単位数						
1年	1～6組	地理歴史(地理総合)	2						
教科書		副教材							
地理総合(二宮書店) 新詳高等地図(帝国書院)		新編地理資料2025(とうほう)							
学習の目標		社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。							
評価の方法		①知識・技能	②思考・判断・表現						
		③主体的に学習に取り組む態度							
知識:地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。 技能:地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。		地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。						
学習計画及び学習の評価									
学期	月	単元名	項目	学習活動と評価のポイント	評価方法				
					①	②	③		
1 学 期	4	地図とGISの活用	1 球面上の世界	<ul style="list-style-type: none"> 地球上の位置情報の基礎として、球体としての地球、緯度・経度の基本的なしくみ、地球上での位置の示し方を理解する。 図法によって異なる世界地図の特色を捉え、スケール、視点、図法などを変化させながら、世界における日本の位置を理解する。 グローバル化が進む世界において、国家間の協調や不均衡を理解するために、世界の実態を捉えるための道具としての統計地図やグラフのつくり方を理解する。 交通・通信、貿易・物流、観光の視点から、人やもの、情報、資本・サービスの移動のようすについて、統計地図やグラフなどの資料から読み取る技能を身に付ける。 GISが日常生活にも利用されている実例を捉え、大量の地理情報を処理できるGISの特徴や利用方法、そのしくみについて理解する。 	○	○	○		
	5		2 世界からみた日本の位置と領域		<ul style="list-style-type: none"> 世界の大地形の変動帯に位置する場所では山岳地域や高原を形成し、地震・火山について理解する 世界の気候をケッペンの気候区分から捉え、植生や農業などが生活文化に影響を与えていることを理解する。 各気候は人々の生活文化とどのような関わりをもつのか、どのような生活の工夫があるのか、資料から考える。 産業を基盤に成り立つ現状を捉え、世界スケールにおける産業の地域的な特徴をグローバル化の観点で理解する。 世界でみられる生活文化の多様性について、宗教、言語の分布や人々との関わりを主題図や写真などの資料を通じて理解するとともに分布を示す要因について理解する。 	○	○	○	
	6		3 国内や国家間の結びつき			<ul style="list-style-type: none"> 社会経済システムの変化に焦点を当て、東アジアの特徴を主題図やグラフなどの資料を通じて捉える。 各文化圏における生活文化の多様性や経済発展を遂げるASEAN諸国の現状と課題について考える。 イスラーム圏の気候条件、宗派の違い、エネルギー資源の有無などを基盤とした経済水準の違いについて理解する。 経済成長や開発の進むアフリカの課題を自然環境と生活文化の関わりから考える。 アメリカ合衆国の多国籍企業が世界の経済や生活文化に影響を与えている現状を捉える。 これからのヨーロッパのよりよい社会を目指して課題について考える。 ラテンアメリカの鉱工業が発展していく中で生じている貧富の差の解決に向けた取り組みを考える。 オセアニアの生活文化の歴史的背景や現状と将来について、多文化社会と関連づけて考える。 	○	○	○
	7		4 暮らしのなかの地図とGIS				<ul style="list-style-type: none"> 深刻な地球環境問題について事例をあげて捉え、それぞれの解決の取り組みについて考える。 エネルギー資源の変化を捉えながら、これらの解決のための取り組みをSDGsと関連づけて考える。 持続可能な社会をつくるために、飢餓とその要因である人口問題、食料問題について、異なる視点から根拠をもとにSDGsと関連づけ対応策を構想する。 世界では都市に人口が集まる都市内部の構造を景観をふまえて理解する。 	○	○
8	1 地形と生活文化	<ul style="list-style-type: none"> 日本の様々な自然災害が起きていることを理解するため災害の具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、などを利用する技能とともに捉える。 日本が抱える地域的な課題について人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や調査の技能を身に付ける。 	○	○				○	
9	2 気候と生活文化		<ul style="list-style-type: none"> 日本の様々な自然災害が起きていることを理解するため災害の具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、などを利用する技能とともに捉える。 日本が抱える地域的な課題について人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や調査の技能を身に付ける。 	○	○			○	
10	3 産業と生活文化			<ul style="list-style-type: none"> 日本の様々な自然災害が起きていることを理解するため災害の具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、などを利用する技能とともに捉える。 日本が抱える地域的な課題について人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や調査の技能を身に付ける。 	○	○		○	
11	4 宗教・言語と生活文化				<ul style="list-style-type: none"> 日本の様々な自然災害が起きていることを理解するため災害の具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、などを利用する技能とともに捉える。 日本が抱える地域的な課題について人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や調査の技能を身に付ける。 	○	○	○	
12	1 東アジア	<ul style="list-style-type: none"> 日本の様々な自然災害が起きていることを理解するため災害の具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、などを利用する技能とともに捉える。 日本が抱える地域的な課題について人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や調査の技能を身に付ける。 				○	○	○	
2 学 期	世界各地の生活文化		2 ASEAN諸国			<ul style="list-style-type: none"> 日本の様々な自然災害が起きていることを理解するため災害の具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、などを利用する技能とともに捉える。 日本が抱える地域的な課題について人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や調査の技能を身に付ける。 	○	○	○
			3 南アジア	<ul style="list-style-type: none"> 日本の様々な自然災害が起きていることを理解するため災害の具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、などを利用する技能とともに捉える。 日本が抱える地域的な課題について人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や調査の技能を身に付ける。 			○	○	○
			4 イスラーム圏		<ul style="list-style-type: none"> 日本の様々な自然災害が起きていることを理解するため災害の具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、などを利用する技能とともに捉える。 日本が抱える地域的な課題について人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や調査の技能を身に付ける。 		○	○	○
5 EUと周辺諸国	<ul style="list-style-type: none"> 日本の様々な自然災害が起きていることを理解するため災害の具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、などを利用する技能とともに捉える。 日本が抱える地域的な課題について人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や調査の技能を身に付ける。 	○	○				○		
6 アフリカ		<ul style="list-style-type: none"> 日本の様々な自然災害が起きていることを理解するため災害の具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、などを利用する技能とともに捉える。 日本が抱える地域的な課題について人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や調査の技能を身に付ける。 	○			○	○		
7 ロシア			<ul style="list-style-type: none"> 日本の様々な自然災害が起きていることを理解するため災害の具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、などを利用する技能とともに捉える。 日本が抱える地域的な課題について人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や調査の技能を身に付ける。 	○		○	○		
8 アメリカ・カナダ				<ul style="list-style-type: none"> 日本の様々な自然災害が起きていることを理解するため災害の具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、などを利用する技能とともに捉える。 日本が抱える地域的な課題について人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や調査の技能を身に付ける。 	○	○	○		
9 ラテンアメリカ	<ul style="list-style-type: none"> 日本の様々な自然災害が起きていることを理解するため災害の具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、などを利用する技能とともに捉える。 日本が抱える地域的な課題について人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や調査の技能を身に付ける。 				○	○	○		
10 オセアニア		<ul style="list-style-type: none"> 日本の様々な自然災害が起きていることを理解するため災害の具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、などを利用する技能とともに捉える。 日本が抱える地域的な課題について人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や調査の技能を身に付ける。 			○	○	○		
3 学 期			地球学的課題と国際協力		1 地球環境問題	<ul style="list-style-type: none"> 日本の様々な自然災害が起きていることを理解するため災害の具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、などを利用する技能とともに捉える。 日本が抱える地域的な課題について人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や調査の技能を身に付ける。 	○	○	○
				2 資源・エネルギー問題	<ul style="list-style-type: none"> 日本の様々な自然災害が起きていることを理解するため災害の具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、などを利用する技能とともに捉える。 日本が抱える地域的な課題について人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や調査の技能を身に付ける。 		○	○	○
	3 人口・食料問題			<ul style="list-style-type: none"> 日本の様々な自然災害が起きていることを理解するため災害の具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、などを利用する技能とともに捉える。 日本が抱える地域的な課題について人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や調査の技能を身に付ける。 			○	○	○
	4 居住・都市問題	<ul style="list-style-type: none"> 日本の様々な自然災害が起きていることを理解するため災害の具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、などを利用する技能とともに捉える。 日本が抱える地域的な課題について人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や調査の技能を身に付ける。 					○	○	○
生活圏の諸課題	1 日本の自然環境と防災		<ul style="list-style-type: none"> 日本の様々な自然災害が起きていることを理解するため災害の具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、などを利用する技能とともに捉える。 日本が抱える地域的な課題について人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や調査の技能を身に付ける。 			○	○	○	
	2 生活圏の諸課題と地域調査				<ul style="list-style-type: none"> 日本の様々な自然災害が起きていることを理解するため災害の具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、などを利用する技能とともに捉える。 日本が抱える地域的な課題について人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や調査の技能を身に付ける。 	○	○	○	
	3			<ul style="list-style-type: none"> 日本の様々な自然災害が起きていることを理解するため災害の具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、などを利用する技能とともに捉える。 日本が抱える地域的な課題について人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や調査の技能を身に付ける。 		○	○	○	
3	<ul style="list-style-type: none"> 日本の様々な自然災害が起きていることを理解するため災害の具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、などを利用する技能とともに捉える。 日本が抱える地域的な課題について人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や調査の技能を身に付ける。 	○				○	○		

令和7年度 シラバス

学年	クラス	教科(科目)	単位数					
1	1~6組	地理歴史(歴史総合)	2					
教科書		副教材						
詳述歴史総合(実教出版)		新詳歴史総合(浜島書店) 詳述歴史総合徹底整理演習ノート(実教出版)						
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 近現代史を中心とする世界史および日本史を、諸資料に基づき地理的条件や文化的な背景と関連付けながら理解させる。 現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考を培う。 							
評価の方法	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度					
	知識:歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代の諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 技能:諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。					
学習計画及び評価方法								
学期	月	単元名	項目	学習活動と評価のポイント	評価の方法			
					①	②	③	
第1学期	4	歴史の扉 第2編 国際秩序の変化や大衆と私たち 第5章 第1次世界大戦と大衆社会	33 緊迫する国際関係 34 第一次世界大戦 35 ロシア革命とシベリア出兵 36 大戦景気と米騒動	歴史学習の導入としての基本的な技能に触れ、興味・関心を高めることができたか。 ・20世紀初頭のヨーロッパ諸国の国際関係を把握し、総力戦としての第1次世界大戦と、ロシア革命の背景について理解できたか。	○	○	○	
	37 ヴェルサイユ体制とワシントン体制 38 西アジア・東アジアの民族運動 39 東アジア・東南アジアの民族運動 40 戦間期の欧米		・戦後の国際協調体制の特徴を理解できたか。 ・戦後の国際協調体制の特徴とともにアジア各地の植民地などで高揚した民族運動について理解できたか。	○	○	○		
	5	第6章 経済危機と第二次世界大戦	41 ひろがる社会運動と普通選挙の実現 42 政党内閣の時代	・日本社会の大衆化について把握し、政治に対する意識の変化や文化の特徴を把握することができたか。	○	○	○	
	43 世界恐慌 44 ファシズムの時代 45 満州事変と軍部の台頭 46 日中戦争 47 第二次世界大戦とアジア太平洋戦争 48 戦争と民衆 49 敗戦		・世界恐慌、ファシズムの台頭など第二次世界大戦の原因について理解できたか。 ・軍部が台頭した原因について多角的に考察することができたか。 ・ヨーロッパの戦争とアジア・太平洋の戦争の展開や民族運動との関係について理解できたか。 ・第二次世界大戦の原因やそれらが及ぼした影響を理解し、平和の意義について考察できたか。	○	○	○		
7		50 国際連合と戦後世界 51 戦後と占領の始まり 52 民主化と日本国憲法 53 冷戦の開始 54 朝鮮戦争と日本	・国際連合の成立により平和の維持がはかられていく過程と、戦後の日本の民主化の流れを理解できたか。 ・東西冷戦が始まり対立の激化していく過程を理解できたか。	○	○	○		
				○	○	○		
第2学期	9	第1編 近代化と私たち 第1章 近代化への胎動 第2章 欧米の市民革命と国民国家の形成	1 ヨーロッパの海外進出と市民社会 2 清の繁栄 3 東アジア諸国間の貿易 4 江戸時代の日本の対外政策 5 江戸時代の社会と生活	・西欧諸国間の重商主義競争と大西洋交易圏の成立、アジア交易の展開について把握し、世界経済体制の形成の特徴を理解できたか。 ・江戸時代後期の日本の社会について、世界との結びつきを確認し、幕末以降の日本の近代化との関連を考察して表現できたか。	○	○	○	
	6 イギリス産業革命 7 アメリカ独立革命		・イギリス産業革命、アメリカ独立戦争の背景や展開の特徴を把握し、ヨーロッパ啓蒙思想を具現化した「革命」としての特徴を理解できたか。	○	○	○		
	11	第3章 アジアの変容と日本の近代化	8 フランス革命とナポレオン 9 ウィーン体制 10 19世紀のイギリスとフランス 11 イタリア・ドイツの統一 12 東方問題と19世紀のロシア 13 アメリカの発展と分裂 14 世界市場の形成	・フランス革命の背景や展開の特徴を把握し、革命の波及を恐れるヨーロッパ諸国とナポレオンの大陸支配の特徴を理解できたか。 ・イタリア・ドイツ・ロシアの近代国家形成の展開について、それぞれの特徴と関連を理解できたか。 ・アメリカ合衆国の領土拡大と南北戦争について、国内の一体化と経済発展に着目して理解できたか。	○	○	○	
	15 イスラーム世界の改編と再編 16 南アジア・東南アジアの改革と再編 17 アヘン戦争の衝撃		・ヨーロッパ列強の進出により変容する東アジアの動向を把握できたか。	○	○	○		
12		18 ゆらぐ幕藩体制 19 開国 20 幕末政局と社会変動 21 新政府の成立と諸改革 22 富国強兵と文明開化 23 近代的な国際関係と国境・領土の確定	・外国船の接近に対する幕府の対応から開国までの流れを理解できたか。また、開国が日本社会に与えた影響について考察できたか。 ・明治新政府の改革のねらいやその影響について考察できたか。 ・日本の国境をめぐる問題の背景を理解できたか。	○	○	○		
第3学期	1	第4章 帝国主義の時代	24 自由民権運動の高まり 25 立憲国家の成立 26 帝国主義と世界分割 27 帝国主義期の欧米諸国	・後発型の国民国家としての日本の国家形成の特徴を把握することができたか。また、憲法の制定が日本社会や外交の在り方に与えた影響について考察できたか。 ・帝国主義時代の国家の役割の変化や大衆社会の成立について把握し、都市化や移民などの人口移動や科学技術の発達による影響を理解できたか。	○	○	○	
	2		28 条約改正 29 日清戦争 30 日露戦争から韓国併合へ 31 日本の産業革命と社会問題 32 アジア諸民族の独立運動・立憲運動	・日清戦争、日露戦争の背景を把握することができたか。 ・日本の欧化政策の特徴を把握し、近隣諸国との関係の変化について考察できたか。	○	○	○	
	2	第3編 グローバル化と私たち 第7章 冷戦と脱植民地化 第8章 多極化する世界	55 冷戦対立の推移 56 植民地の独立と第三世界の出現 57 米ソ両陣営の動揺 58 日本の国際社会復帰と高度経済成長 59 石油危機と世界経済 60 緊張緩和から冷戦の終結へ 61 地域協力の推進	・ベトナム戦争によるアメリカの挫折、中ソ対立による社会主義陣営の分裂などにともなう多極化が進んだと理解できたか。	○	○	○	
	3		62 日本の経済大国化 63 冷戦体制の終結 64 地域紛争と世界経済 65 グローバルな認識へ	・東西冷戦が続く中、日本の高度経済成長が進展して経済大国となっていた状況を把握し、その原因を考察できたか。 ・冷戦体制が崩壊するまでの流れを把握できたか。 ・歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解し、考察することができるようになったか。	○	○	○	
	3	第9章 グローバル化と現代世界				○	○	○
						○	○	○

令和7年度 シラバス

学年	クラス	教科(科目)	単位数									
1	1~6	数学(数学I)	2									
教科書		副教材										
高等学校 数学I(数研出版)		アドバンスα 数学I+A(啓林館)										
学習の目標		数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学の良さを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。										
評価の方法		①知識・技能 数と式、2次関数、図形と計量、データの分析及び図形と方程式において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	② 思考・判断・表現 数と式、2次関数、図形と計量、データの分析及び図形と方程式において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。									
		③ 主体的に学習に取り組む態度 数と式、2次関数、図形と計量、データの分析及び図形と方程式における考え方に興味をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。										
学習計画及び評価方法												
学期	月	単元名	項目	学習活動と評価のポイント	評価方法							
					①	②	③					
第1学期	4	第1章 数と式	1節 式の計算 2節 実数 3節 1次不等式	<ul style="list-style-type: none"> 複雑な式の計算も、式の整理と変形によって、また公式を利用して能率よく計算を行う能力を養成する。 有理数について学習し、有理数を循環小数で表すことを考察する。また実数の絶対値についても学習する。 根号を含む無理数の計算を正しく行う能力を養成する。 不等式の基本性質をもとに、1次不等式の解法を理解させる。 連立1次不等式の解法を理解させる。 	○	○	○					
	5							<ul style="list-style-type: none"> 定期考査においてすべての観点を評価する。 	○	○	○	
	6	第2章 集合と命題	命題と条件	<ul style="list-style-type: none"> 集合の要素の個数に関していくつかの基本性質を導き、その適用方法を体系的に理解させる。 命題の真偽と集合の関係を明らかにし、必要条件・十分条件や必要十分条件の関係を知らせる。 定期考査においてすべての観点を評価する。 	○	○	○					
第2学期	7	第3章 2次関数	1節 2次関数とグラフ 2節 2次関数の値の変化 3節 2次方程式と2次不等式	<ul style="list-style-type: none"> 一般の2次関数$y=ax^2+bx+c$のグラフが$y=ax^2$をもとにして得られることを グラフの平行移動を通して明らかにする。 2次関数の値の変化やグラフからその最大値や最小値を考え、2次関数の最大と最小に関する問題を処理する能力を高める。 	○	○	○					
	9							<ul style="list-style-type: none"> 2次関数のグラフとx軸との位置関係を調べることから、2次方程式の解の意味を明らかにし、2次方程式の解の有無や解の性質を調べる。 2次関数のグラフから2次不等式の解の意味を考え、一般の2次不等式や2次不等式に関連した問題が解けるようにする。 定期考査においてすべての観点を評価する。 	○	○	○	
	10			<ul style="list-style-type: none"> 三角比の正接、正弦および余弦の意味を理解させる。 三角比を鈍角の場合にまで拡張し、三角比の相互関係を調べる。 正弦定理、余弦定理を導き、これを用いて三角形の辺と角の関係を明らかにする方法、測量問題を解決する方法などを取り上げ、三角比の考えの有用性を認識させる。また三角形の面積を求める公式を導き、これを活用しているような計算問題を処理する能力を高める。 定期考査においてすべての観点を評価する。 	○	○	○					
第3学期	11	第4章 図形と計量	1節 三角比 2節 三角形への応用	<ul style="list-style-type: none"> 度数分布表、ヒストグラムについて理解し、身近な統計における代表値・平均値・中央値・最頻値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。 範囲の定義や四分位数・四分位範囲の定義と意味を理解しデータの散らばりを比較する。また箱ひげ図をかき、データの分布と箱ひげ図の関係について理解する。偏差、分散、標準偏差を求め、散布図を作成し2つの変量の間の相関を考察することができる。 定期考査においてすべての観点を評価する。 	○	○	○					
	12											
第3学期	1	第5章 データの分析		<ul style="list-style-type: none"> 度数分布表、ヒストグラムについて理解し、身近な統計における代表値・平均値・中央値・最頻値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。 範囲の定義や四分位数・四分位範囲の定義と意味を理解しデータの散らばりを比較する。また箱ひげ図をかき、データの分布と箱ひげ図の関係について理解する。偏差、分散、標準偏差を求め、散布図を作成し2つの変量の間の相関を考察することができる。 定期考査においてすべての観点を評価する。 	○	○	○					
	2											
	3											

令和7年度 シラバス

学年	ク	ラ	ス	教科(科目)	単位数		
1	1~6			理科(物理基礎)	2		
教科書				副教材			
新編 物理基礎(数研出版)				ステップアップノート物理基礎(啓林館), センサー物理基礎(啓林館), 新課程フォローアップドリル物理基礎(運動の表し方・力・運動方程式, 仕事とエネルギー・熱, 波・電気)(数研出版), 物理実験テキスト(富山県理化学会)			
学習の目標		日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動などの様々な物理現象やエネルギーへの関心を高め、観察、実験などを通して物理学的に探究する能力と態度を育てると共に、物理学の基本的な概念や原理・法則、物理学の果たす役割を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。					
評価の方法		①知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度			
		・社会との関連を図りながら、物理について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身につけることができる。 ・設定したテーマについて情報を収集して仮説を立て、実験を実施することができる。	・物理現象や原理について考え、応用することができる。 ・実験の結果を考察することができる。 ・実験結果をレポートにまとめたり発表したりすることができる。	・身近な現象に疑問を持ち、物理の探究の進め方に興味を持つことができる。 ・日常生活の中の現象について物理的関心を持ち、実験を実施することができる。			
学習計画及び評価方法							
学期	月	単元名	項目	学習活動と評価のポイント	評価方法		
					①	②	③
第1学期	4	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方	1 速度	物体の運動の基本的な表し方について理解する。 物体が直線上を運動する場合の加速度を理解する。 物体が落下する場合の、運動の特徴(速度,加速度)を理解する。	○	○	
	5		2 加速度				
	6		3 落体の運動				
	7	第2章 運動の法則	1 力とそのはたらき	物体に様々な力が働くことを理解する。 物体に働く力のつり合いを理解する。 運動の三法則、特に力と加速度について理解する。	○	○	○
	7		2 力のつりあい				
7		3 運動の法則	4 摩擦を受ける運動 5 液体や気体から受ける力	摩擦力、浮力などのいろいろな力や圧力について理解する。	○	○	○
第2学期	9	第3章 仕事と力学的エネルギー	1 仕事	運動エネルギーと位置エネルギーについて、仕事と関連づけて理解する。 力学的エネルギー保存の法則を仕事と関連付けて理解する。	○	○	○
	9		2 運動エネルギー				
	10	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー	3 位置エネルギー	熱と温度について、原子や分子の熱運動という視点から理解する。 熱の移動及び熱と仕事の変換について理解する	○	○	○
	10		4 力学的エネルギーの保存				
11	第3編 波 第1章 波の性質	1 熱と物質の状態	波の性質について、直線状に伝わる場合を中心に理解する。	○	○	○	
11		2 熱と仕事					
12	第2章 音	1 波と媒質の運動	身近な波の一つである音の様々な現象について、波の観点から観察、実験を通して理解する。 気柱の共鳴、弦の振動及び音波の性質を理解する。	○	○	○	
12		2 重ね合わせの原理					
第3学期	1	第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗	1 電気の性質	静電気から電気の量や電荷の概念を理解する。 電流のはたらきおよびオームの法則を理解する。	○	○	○
	1		2 電流と電気抵抗				
	2	第2章 磁場と交流	1 電流と磁場 2 交流と電磁波	交流の発生、送電及び利用について、基本的な仕組みを理解する。	○	○	○
3	第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーとその利用	1 エネルギーの移り変わり 2 エネルギー資源と発電	人類が利用可能な水力、化石燃料、原子力、太陽光などを源とするエネルギーの特性や利用などについて、物理学的な視点から理解する。	○	○	○	

令和7年度 シラバス

学年	クラス	教科(科目)	単位数				
1	1～6	理科(生物基礎)	2				
教科書		副教材					
高等学校生物基礎(数研出版)		リードα生物基礎(数研出版)					
学習の目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。						
評価の方法	①知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度				
	・観察や実験を通し、生物に関する事物や現象について基本的な概念やそのしくみについて理解できる。 ・生物の観察や実験の技能を習得し、それらをレポートやスケッチなどとしての確に表現できる。	生物の共通性や多様性を総合的に考え、生命のしくみについて科学的に判断し、説明できる。	生物学的な事物・現象に関心を持ち、意欲的に取り組み、探究する態度を身に付けることができる。				
学習計画及び評価方法							
学期	月	単元名	項目	学習活動と評価のポイント	評価方法		
					①	②	③
第1学期	4	第1章 生物の特徴	第1節 生物の多様性と共通性	・生物は多様でありながら共通性をもっていることを見いだして理解し、生物の共通性と起源の共有を関連付けて理解する。	○	○	○
			第2節 細胞とエネルギー	・生命活動にはエネルギーが必要であること、生命活動のエネルギーはATPの形で供給されることを理解する。	○	○	
	5		第3節 呼吸と光合成	・呼吸と光合成のしくみについて学ぶ。	○	○	○
	6	第2章 遺伝子とのはたらき	第1節 遺伝情報とDNA	・DNAの特徴について理解する。	○		○
			第2節 遺伝情報の複製と分配	・DNAが半保存的に複製されることを理解する。 ・細胞周期の進行に伴って、DNAが複製され分配されることにより、遺伝情報が伝えられることを理解する。	○	○	○
7		第3節 遺伝情報の発現	・タンパク質のアミノ酸配列は、DNAの塩基配列によって決まることを理解する。 ・個体を構成する細胞は全て同じ遺伝子が含まれるが、細胞の機能に応じて発現している遺伝子が異なることを理解する。	○	○	○	
第2学期	9				○	○	○
	10	第3章 ヒトの体内環境の維持	第1節 体内での情報伝達と調節	・体内環境が保たれている仕組みを理解する。	○		○
	11		第2節 体内環境の維持のしくみ	・ホルモンと自律神経のはたらきによって、体内環境が維持されていることを理解する。	○		○
			第3節 免疫のはたらき	・からだに、異物を排除する防御機構が備わっていることを理解する。	○	○	○
12			・免疫と病気の関係や、免疫が医療に応用されていることを理解する。	○	○	○	
第3学期	1	第4章 生物の多様性と生態系	第1節 植生と遷移	・植生の成り立ちとともに、植生が時間の経過とともに移り変わっていくことを理解する。		○	○
			第2節 植生の分布とバイオーム	・世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解する	○	○	○
	2		第3節 生態系と生物の多様性	・生態系の成り立ちを理解する	○	○	○
	3		第4節 生態系のバランスと保全	・人間活動が生態系に及ぼす影響について理解するとともに、生態系の保全の重要さについて理解する。	○	○	○

令和7年度 シラバス

学年		クラス		教科(科目)		単位数							
1年 男子		1~6		体育		3							
教科書				副教材									
現代高等保健体育(大修館書店)				ステップアップ高校スポーツ2025(大修館書店)									
学習の目標		<ul style="list-style-type: none"> 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。 											
評価の方法		①知識・技能		② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度							
		運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解するとともに、目的に応じた技能を身に付けている。 ・実技テスト・知識テストなど		自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。 ・レポート・グループ活動の発言		運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしている。 学習状況(意欲、態度、グループ活動等)の観察							
学習計画及び評価方法													
学期	月	時数	単元名	項目	学習活動と評価のポイント	評価方法							
						①	②	③					
第1学期	4	12	体づくり運動	集団行動 体力テスト	体づくり運動 ・運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解している。 陸上競技 ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ・短距離走・リレーでは、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることやバトンの受渡して次走者のスピードを十分高めることができる。 ・長距離走では、自己に適したペースを維持して走ることができる。	○	○	○					
	5	18	陸上競技	短距離走 リレー	球技 ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ・ゴール型では、安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。 ・ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 ・ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることができる。	○	○	○					
	6	6		球技		ラグビー	○	○	○				
	7	3	体育理論	スポーツの発祥と発展	○	○	○						
第2学期	9	12	2単位	1単位	2単位	1単位	器械運動 ・技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などについて理解している。 ・マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができる。 体育理論 ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。	○	○	○			
	球技		武道	ラグビー	球技選択 (バドミントン 卓球)								
		球技選択 (ソフトボール テニス)											
	10	12											
	11												
12	3	器械運動	マット運動										
第3学期	1	12	球技	バレー ボール	球技選択 (バドミントン 卓球)	○	○	○					
	2	12				○	○	○					
	3	3	体育理論	スポーツの発祥と発展	○	○	○						

令和7年度 シラバス

学年		クラス		教科(科目)		単位数				
1年 女子		1~6		体育		3				
教科書				副教材						
現代高等保健体育(大修館書店)				ステップアップ高校スポーツ2025(大修館書店)						
学習の目標		<ul style="list-style-type: none"> 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。 								
評価の方法		①知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度						
		運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。 ・実技テスト・知識テストなど	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。 ・課題レポート・グループ活動の発言	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしている。 学習状況(意欲、態度、グループ活動等)の観察						
学習計画及び評価方法										
学期	月	時数	単元名	項目	学習活動と評価のポイント	評価方法				
						①	②	③		
第1学期	4	12	体づくり運動	集団行動 体力テストなど	体づくり運動 ・運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解している。 陸上競技 ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ・短距離走・リレーでは、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることやバトンの受渡して次走者のスピードを十分高めることができる。 ・長距離走では、自己に適したペースを維持して走ることができる。	○	○	○		
	5	18	陸上競技	短距離走 リレー	球技 ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ・ゴール型では、安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。 ・ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 ・ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることができる。	○	○	○		
	6	6		球技		球技選択 (ソフトボール テニス)	○	○	○	
	7	3	体育理論	スポーツの発祥と発展	○	○	○			
第2学期	9	18	2単位	1単位	2単位	1単位	ダンス ・ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などについて理解している。 ・創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方に変化を付けて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊ることができる。	○	○	○
	10		球技	ダンス	球技選択 (ソフトボール テニス)	創作ダンス				
	11	18	ダンス		創作ダンス	器械運動 ・技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などについて理解している。 ・マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができる。	○	○	○	
	12	3	体育理論	スポーツの発祥と発展	体育理論 ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。	○	○	○		
第3学期	1	12	球技	バレー ボール	球技選択 (バドミントン 卓球)		○	○	○	
	2	12					○	○	○	
	3	3	体育理論	スポーツの発祥と発展	○	○	○			

令和7年度 シラバス

学年	クラス	教科(科目)	単位数					
1	1~6	保健	1					
教科書		副教材						
現代高等保健(大修館書店)		図説現代高等保健(大修館書店) 現代高等保健体育ノート(大修館書店)						
学習の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。 (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。							
評価の方法	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度					
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。 ・定期考査、知識小テスト	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。 ・定期考査、課題レポート、ノート内容	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。 ・学習状況(意欲、態度、グループ活動等)の観察、ノート内容					
学習計画及び評価方法								
学期	月	時数	単元名	項目	学習活動と評価のポイント	評価方法		
						①	②	③
第1学期	4	1	現代社会と健康	健康の考え方や成り立ち	・さまざまな健康の考え方について例をあげて説明できる。 ・健康を成り立たせている要因について例をあげて説明できる。	○	○	○
				私たちの健康のすがた	・わが国の健康水準の変化とその背景について説明できる。 ・わが国の現在の健康問題について例をあげて説明できる。	○	○	○
	5	2		生活習慣病の予防と回復	・生活習慣病の種類と要因について説明できる。 ・生活習慣病の一次予防、二次予防について例をあげて説明できる。	○	○	○
				がんの原因と予防	・がんの種類や原因について説明できる。 ・がんの一次予防と二次予防について例をあげて説明できる。	○	○	○
	6	2		がんの治療と回復	・がんのおもな治療法や緩和ケアについて説明できる。 ・がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について説明できる。	○	○	○
				運動と健康	・健康と運動の関係について説明できる。 ・目的に応じた健康的な運動のしかたについて例をあげて説明できる。	○	○	○
	7	1		食事と健康	・食事と健康の関係について説明できる。 ・健康的な食事のとり方について説明できる。	○	○	○
				休養・睡眠と健康	・健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について説明できる。 ・健康と睡眠の関係及び健康により睡眠のとり方について説明できる。	○	○	○
第2学期	9	2	喫煙と健康	・喫煙者やその周囲の人に起こる害について説明できる。 ・喫煙対策について、個人と社会に分けて例をあげて説明できる。	○	○	○	
			飲酒と健康	・飲酒による健康への短期的影響と長期的影響を説明できる。 ・飲酒による健康問題に対する個人や社会環境への対策について例をあげて説明できる。	○	○	○	
	10	1	薬物乱用と健康	・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について説明できる。 ・薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策例をあげることができる。	○	○	○	
			精神疾患の特徴	・精神疾患の例をあげ、発病の要因とおもな症状について説明できる。 ・現代社会における精神保健の課題をあげることができる。	○	○	○	
	11	1	精神疾患の予防	・精神疾患を予防する方法について説明できる。 ・精神疾患の早期発見のために必要なことについて説明できる。	○	○	○	
			精神疾患からの回復	・精神疾患の治療について例をあげて説明できる。 ・精神疾患の適切な治療や回復のためには、どのような社会環境が必要か説明できる。	○	○	○	
	12	2	現代の感染症	・感染症とは何かについて潜伏期間や感染力なども含めて説明できる。 ・新興感染症と再興感染症が流行する要因をそれぞれ説明できる。	○	○	○	
			感染症の予防	・感染症の予防対策について3原則から例をあげて説明できる。 ・感染症への個人と社会の対策について例をあげて説明できる。	○	○	○	
12	1	性感染症・エイズとその予防	・性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点について説明できる。 ・性感染症・エイズの予防とその対策について個人と社会に分けて例をあげることができる。	○	○	○		
		健康に関する意思決定・行動選択	・意思決定・行動選択に影響を与える要因について説明できる。 ・健康に関する適切な意思決定・行動選択の際の工夫について例をあげて説明できる。	○	○	○		
第3学期	1	2	健康に関する環境づくり	・社会環境の健康への影響について例をあげて説明できる。 ・ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について説明できる。	○	○	○	
			事故の現状と発生要因	・事故の実態と被害の実態について説明できる。 ・事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることについて例をあげて説明できる。	○	○	○	
	2	1	安全な社会の形成	・安全のために必要な個人の行動について例をあげて説明できる。 ・すべての人たちの安全を確保するために必要な環境整備について例をあげて説明できる。	○	○	○	
			交通における安全	・交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について例をあげて説明できる。 ・交通事故における責任を3つに分けて説明できる。	○	○	○	
			応急手当の意義とその基本	・応急手当の意義について説明できる。 ・傷病者を発見したときに、確認・観察するポイントをあげることができる。	○	○	○	
			日常的な応急手当	・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について説明できる。 ・実際に、日常的なけがや熱中症の応急手当ができる。	○	○	○	
3	2	心肺蘇生法	・心肺蘇生法の方法と手順について説明できる。 ・実際に、心肺蘇生法をおこなうことができる。	○	○	○		

令和7年度 シラバス

学年	クラス	教科(科目)	単位数				
1	1~6	芸術(音楽I)	2				
教科書		副教材					
高校生の音楽1(教育芸術社)		MUSIC NOTE(啓隆社)					
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな音楽活動をする上で必要な基礎的音楽の能力を高め、創意工夫を生かした音楽表現ができるとともに、文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりなどを踏まえて、音楽について考える力を身に付ける。 ・日本や世界の音楽に触れることで、さまざまな価値観を持つ音楽に対しても、広い視点からそれらの音楽の良さを感じ取り、音楽の多様性について理解を深める。 ・音楽のさまざまな活動を通して感性を豊かに育み、生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽文化に親しむ姿勢を育てる。 						
評価の方法	①知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度				
	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な知識や技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 				
学習計画及び評価方法							
学期	月	単元名	項目	学習活動と評価のポイント	評価方法		
					①	②	③
第1学期	4	表現(歌唱) 発声方法	オリエンテーション 校歌を知ろう 正しい発声を身に付けて、豊かな響きで歌おう	・バランスのよい姿勢や呼吸の仕方、声の響かせ方を意識し、曲のイメージをもち、曲想と歌詞との関わりや旋律の特徴を理解して表現することができる。	○		○
		表現	楽典①音名を覚えよう 楽典②音符と休符について確認しよう	・音名や譜表、音符や休符について理解し、楽譜の読み方について確認することで表現活動に生かす。	○	○	○
	5	表現(リズム)	リズム合奏を楽しもう①	・リズムパターンを言葉でリズム唱するなど、拍の流れを全員で共有して、拍を感じながら手拍子や足踏みをすることができる。	○		○
		表現(リズム)	リズム合奏を楽しもう②	・強弱や効果的な演奏表現、練習方法について、グループで話し合い、創意工夫した発表をする。	○	○	○
	6	表現(歌唱)	曲にふさわしい発声で、表情豊かに歌おう	・曲にふさわしい発声や言葉の発音、身体の使い方など技能を身に付け、曲想と音楽の構造について理解している。	○		○
		鑑賞	曲の構造を理解し、ピアノのもつ表現力を味わおう	・曲の構造を理解し、ピアノ曲の魅力を味わう。	○	○	○
第2学期	7	表現(創作)	音を組み合わせる曲を作る	・4つの音を用いてリズムや音の並べ方を工夫し、旋律を作る。 ・正しい記譜の仕方を知り、実際に書いたリタブレットで入力したりする。	○	○	○
		鑑賞	雅楽・能の世界にふれよう	・舞楽の構成について理解する。 ・能の音楽様式を学び、《高砂》の詞章を誦したり「呂中干」の唱歌を唄ったりして音楽の特徴を感じ取る。	○		○
	9	表現(創作)	旋律の雰囲気を変化させよう	・平易な旋律に音を加えたり、リズムや拍子を変えたりして変奏することができる。	○	○	○
	10	表現(歌唱) 鑑賞	外国語の歌曲を歌おう(2人の作曲家による「野ばら」)	・ドイツ語の発音の特徴やゲーテの詩「野ばら」の内容を理解する。 ・ドイツ語の強弱によるリズムと旋律との関わりを理解する。 ・歌詞の内容や曲の雰囲気を理解して、2つの「野ばら」を工夫して歌う。	○	○	○
	11	鑑賞	総合芸術を知ろう(オペラの鑑賞とその特徴)	・歌唱、器楽のさまざまな組み合わせによる表現を味わう。 ・歌詞の内容や場面の状況を理解する。	○	○	
	12	表現(器楽・歌唱)	ギターを弾こう① 楽典③和音(コード)について	・ギターの構造を理解し、基本的な奏法を身に付ける。 ・コードの仕組みを理解し、ギターで押さえることができる。 ・TAB譜やダイアグラムを見て簡単な旋律やコードを演奏することができる。 ・曲の表現方法を工夫して、弾き歌いすることができる。	○		○
第3学期		鑑賞	曲の構成を理解し、曲に込められた思いを感じ取ろう	・ベートーヴェン作曲交響曲第9番を聴く。 ・音楽の構成とシラーの歌詞を確認しながら、ベートーヴェンが曲に込めた思いを考える。	○	○	○
	1	表現(器楽)	ギターを弾こう②(ギターアンサンブル)	・TAB譜を読み、練習動画も参考にして主体的に練習に取り組む。 ・グループで練習方法や表現を工夫して、ギターアンサンブルを作り上げる。	○		○
	2	表現(歌唱)	合唱曲を歌おう①	・声部の役割を理解し、パート練習に積極的に取り組む。 ・強弱、テンポ、歌詞の意味など、どのように表現したいか話し合う。		○	○
		表現(歌唱・器楽)	芸術科発表会を成功させよう(発表に向けての個人練習、グループ練習)	・グループごとに協力して練習に取り組むことができる。 ・発表のマナーについて確認する。 ・録音や撮影を行い、演奏を振り返り、意見を述べ合う。	○	○	○
3	表現(歌唱・器楽) 鑑賞	芸術科発表会	・1年間の成果をグループごとに発表し、感想を述べ合う。	○	○	○	

令和7年度 シラバス

学年	クラス	教科(科目)	単位数				
1	1~6H	芸術(美術I)	2				
教科書		副教材					
美術1(光村図書)							
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・美術の創造的な活動を通して、美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てる。 ・感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 ・美術文化についての理解を深め、豊かな美術の能力を高める。 ・材料と用具の特性を理解し、特性を生かした表現ができる技能を身に付ける。 						
評価の方法	①知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度				
	<ul style="list-style-type: none"> ・美術文化についての理解を深め、そのよさや美しさを創造的に味わう。 ・創造的な表現をするために材料・用具の特性を理解し、特性を生かした表現ができる技能を身に付ける。 ・形や色彩、材料、光と影などが感情にもたらす効果を理解できる。 ・手順を理解し、考えながら見通しを持って創作活動ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己を深く見詰め、感じ取ったことや考えたことなどから、独創的な主題を生成し、主題に応じた表現の可能性を探りながら考え、個性を生かして創造的な表現の構想を練る。 ・感性をはたらかせて美術のよさや美しさを感じ取り、豊かに発想し、創造的な表現を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術の創造活動の中で、主体的に感じ取ったことや考えたことなどを基に表現したり、鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。 ・美術を愛好し、表現の主題や形式などに幅広く関心をもち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の喜びを味わおうとする。 				
学習計画及び評価方法							
学期	月	単元名	項目	学習活動と評価のポイント	評価方法		
					①	②	③
第1学期	4	鑑賞	教科書や参考作品を鑑賞する。	美術の学習内容に関心を持つことができる。	○		○
		絵画－油絵	風景をスケッチする。	対象をよく見て描写することができる。		○	○
	5		油彩用具の使い方を知る。	油彩用具の基本的な使い方を理解することができる。	○		
		絵画－油絵	奥行きのある構図を考えて下絵を描く。	画面全体の配置と奥行きを考えながら、構図を工夫して下絵を描くことができる。		○	○
	6		油絵の具で明暗をつける。	画面全体のバランスを考えながら、明暗を付けることができる。	○	○	○
			本制作をする。	油絵のマチエールを生かし、対象の色調を捉え、空気感を意識して描くことができる。	○	○	○
第2学期	7	デザイナーポスター	ポスター作品を鑑賞し、ポスターの役割を知る。	視覚伝達デザインとしてのポスターの役割を理解し、問題意識を持って取り組むことができる。	○		○
	9		図案とキャッチコピーを考える。	何を伝えたいのか、見る人にわかる訴求力のある図案と、キャッチコピーを考えることができる。		○	○
	10		色の特性を知る。	同時対比による色の見え方や、心理効果・色彩調和を理解することができる。	○		○
			配色計画を立てる。	バランスのとれた配色計画を立てることができる。		○	○
	11	デザイナーポスター	下書きをする。	全体のバランスを考えて下書きすることができる。		○	○
			アクリルガッシュ絵の具の使い方を知る。	アクリルガッシュ絵の具の特性を理解し、ムラのない美しいマットな塗り方の技術を習得することができる。	○		
		計画的に着彩する。	全体の完成形を想定しながら、遠景から計画的に彩色し、フィニッシュワークを丁寧にいき、完成度の高い作品を目指すことができる。	○	○	○	
12	鑑賞	作品を鑑賞する。	友達や自分の作品のよさを感じとることができる。		○	○	
第3学期	1	彫塑－木彫	木彫作品を鑑賞する。	作家の木彫作品に興味関心を持つことができる。	○		○
			木彫の特徴を知り、アイデアを考える。	木彫の特性を理解し、木彫の特徴を活かした独創的なアイデアを考え出すことができる。	○		○
	2		バランスをみて下書きをし、計画的に造形する。	全体のバランスを考えて下書きし、工夫を凝らして計画的に造形することができる。	○	○	○
3	鑑賞	作品を鑑賞する。	友達や自分の作品のよさを感じとることができる。		○	○	

令和7年度 シラバス								
学年		クラス		教科(科目)		単位数		
1		2~6H		芸術(書道)		2		
教科書				副教材				
書 I (光村図書)								
学習の目標		<p>(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>						
評価の方法		①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度				
		<ul style="list-style-type: none"> 書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。 				
学習計画及び評価方法								
学期	月	単元名	項目	学習活動と評価のポイント	評価方法			
					①	②	③	
第1学期	4	書写から書道へ		<ul style="list-style-type: none"> 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、仮名の成立等、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解する。 	○			
		漢字の書	楷書	<ul style="list-style-type: none"> 孔子廟堂碑、九成宮醴泉銘 	○	○	○	
	5		雁塔聖教序、顔氏家廟碑	<ul style="list-style-type: none"> 用具・用材の特徴と表現効果の関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。 漢字の書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、漢字の書の古典の線質、字形を生かした表現を身に付ける。 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解する。 	○	○	○	
			牛橛造像記、鄭羲下碑	<ul style="list-style-type: none"> 創造された作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組むようにする。 	○		○	
	6		隷書	曹全碑	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の書のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組むようにする。 	○		○
			篆書	泰山刻石		○		○
	7		篆刻	篆刻	<ul style="list-style-type: none"> 篆刻の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組むようにする。 	○		○
第2学期	9		行書	<ul style="list-style-type: none"> 蘭亭序、争坐位文稿、風信帖 智永真草千字文 	○	○	○	
	10		古典を生かした創作		○	○	○	
	11	仮名の書	仮名の基本用筆、連綿、平仮名	<ul style="list-style-type: none"> 用具・用材の特徴と表現効果との関わり、線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。 	○			
			蓬莱切 高野切古今和歌集	<ul style="list-style-type: none"> 仮名の書の基本的な用筆・運筆の技能、連綿と単体、線質や字形を生かした表現を身に付ける。 	○	○		
	12		古筆を生かした創作	<ul style="list-style-type: none"> 仮名の書の古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。 	○	○	○	
第3学期	1	漢字仮名交じりの書		<ul style="list-style-type: none"> 目的や用途に即した効果的な表現の技能、漢字と仮名の調和した線質による表現を身に付ける。 	○	○	○	
	2	生活の中の書		<ul style="list-style-type: none"> 漢字仮名交じりの書のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組むようにする。 生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを感じている。 	○			
	3	発表会・鑑賞会		<ul style="list-style-type: none"> 相互鑑賞をふまえ、制作意図や表現の工夫を明確にし、発表する。 音楽や美術選択者の発表を鑑賞し、芸術への造詣を深める。 	○	○	○	

令和7年度 シラバス

学年	クラス	教科(科目)	単位数				
1	1~6	英語(英語コミュニケーションI)	3				
教科書		副教材					
Element English Communication I(啓林館)		Element English Communication I サブノート(啓林館) 改訂版必携英単語LEAP(数研出版)					
学習の目標	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、以下の5つの領域において言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。</p> <p>聞くこと、読むこと、話すこと(やりとり、発表)、書くことにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができるようにする。また、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。また、聞いたり、読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝える文章を書くことができるようにする。</p>						
評価の方法	①知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度				
	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について聞いたり、書かれた文等を読んで、その情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して伝え合ったり、書いたりできる知識や技能を身に付けているか。</p> <p>活動、課題、発表、テストで評価する。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、話し手の意図や概要、要点を捉えているか。</p> <p>情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝えているか。</p> <p>活動、課題、発表、テストで評価する。</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されることを聞こうとしたり、話そうとしている。また、与えられた情報について書こうとしているか。</p> <p>活動、課題、発表、テストで評価する。</p>				
学習計画及び評価方法							
学期	月	単元名	項目	学習活動と評価のポイント	評価方法		
					①	②	③
第1学期	4	Lesson 1	Intercultural Relationship	<ul style="list-style-type: none"> ・強弱のリズム・イントネーションを聞き取る。 ・海外の高校生に日本の文化を紹介する計画についての会話を聞き取る。 ・ワシントンの桜についての物語を読み、その内容についてリテリングを行う。 ・自分のことについてクラスメートと情報を伝え合う。 	○	○	○
	5						
	6	Lesson 2	Love beyond Species	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットを友人に預ける際の注意点を聞き取る。 ・Christian the Lionを読み、概要を理解する。 ・現在完了形/現在完了進行形、分詞の限定用法を用いた文の構造を理解する。 ・ペットとして飼われたライオンの物語を読み、その内容についてリテリングを行う。 ・ペットを飼いたい子どもと反対する親という設定でロールプレイを行う。 	○	○	○
第2学期	7	Lesson 3	Contributing to Our Planet	<ul style="list-style-type: none"> ・使い捨てのビニール袋とエコバッグのメリット・デメリットを聞き取る。 ・Bye Bye Plasticsを読み、概要を理解する。 ・関係代名詞、使役動詞を用いた文の構造を理解する。 ・身近な環境問題とその解決策について話し合う。 	○	○	○
	9						
	10	Lesson 4	Messages for World Peace	<ul style="list-style-type: none"> ・Twice Bombed, Twice Survivedを読み、登場人物の心情を理解する。 ・過去完了形、知覚動詞を用いた文の構造を理解する。 ・山口さんの願いを継ぐために自分たちがすべきことについてディスカッションをする。 	○	○	○
	11	Lesson 5	Respecting Each Other	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人や物について話している会話を聞き取る。 ・Nobody's Perfectを読み、登場人物の心情をおさえ、概要を理解する。 ・関係代名詞のwhat、関係副詞を用いた文の構造を理解する。 ・野球の投手と誤審を行った審判についての物語を読み、その内容についてリテリングを行う。 ・イラストを見て、状況を説明する。 	○	○	○
	12	Lesson 6	Language and Culture	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオニュースを聞き取る。 ・関係代名詞の非限定用法、分詞構文を用いた文の構造を理解する。 ・作家のスピーチを読み、その内容についてリテリングを行う。 ・好きなアニメや漫画、映画について発表する。 ・日本文化が楽しめる場所を例示しながら説明する文章を書く。 	○	○	○
第3学期	1	Lesson 7	Technology and Discoveries	<ul style="list-style-type: none"> ・科学イベントのスケジュールと講演の内容を聞き取る。 ・Serendipityを読み、概要を理解する。 ・形式主語のit、be動詞の補語になるthat節を用いた文の構造を理解する。 ・偶然の発見による発明についての英文を読み、その内容についてリテリングを行う。 ・電子書籍より紙の書籍を好む理由を対比しながら書く。 	○	○	○
	2	Lesson 8	Standing Up for Human Rights	<ul style="list-style-type: none"> ・Playing the Enemyを読み、登場人物の心情をおさえ、概要を理解する。 ・仮定法過去/仮定法過去完了、過去完了進行形を用いた文の構造を理解する。 ・Playing the Enemy で人権に関する状況がどのように変わったかを時系列に沿って書話す。 	○	○	○
	3						

令和7年度 シラバス

学年	クラス	教科(科目)	単位数					
1	1~6	家庭(家庭基礎)	2					
教科書		副教材						
Agenda家庭基礎(実教出版)		生活学NAVI(実教出版)						
学習の目標	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得すると共に、国際化・情報化が発展し生活様式の多様化が進む現代社会の中で、自分らしく生きようとする意欲と生活の充実・向上を図ろうとする実践的態度を身に付け、さまざまな人と協働し、より良い社会の構築に向けて主体的に生活を創造する資質・能力を養う。							
評価の方法	①知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度					
	・人の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深める。 ・生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解していると共に、それらに関わる技能を身に付けている。	・生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出し、課題を設定して解決策を構想することができる。 ・実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて理論的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・さまざまな人々と協働し、より良い社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組むことができる。 ・自分や家庭、地域の生活を創造し、実生活への応用力を身に付けている。					
	学習計画及び評価方法							
学期	月	単元名	項目	学習活動と評価のポイント	評価方法			
					①	②	③	
第1学期	4	生活設計	人生100年時代をデザインする	これまでの自分を振り返り、現在の自分を認識し、これからの方向性に目を向ける。		○	○	
	5	自分・家族 ー多様な社会に生きるー	1. これからをどう生きるか 2. 青年期の自立 3. 社会の変化と家族 4. 家族・人生・生き方と法律 5. 多様な課題を抱える家族・家庭 6. 持続可能な生活と仕事 7. 多様な生き方を保障する社会へ	・ライフステージの特徴と発達課題を理解する。 ・青年期の課題を知り、自立に向けた目的意識をもつ。 ・家族のあり方や多様な人々との共生を理解し、家族の問題や社会制度の問題解決の方向性を見出す。 ・個人や家族を支える社会システムや法律について理解する。 ・職業や家事労働の現状と課題について考える。	○	○	○	
			消費・環境 ー消費社会を生きるー	1. お金の管理とライフデザイン 2. 暮らしと経済のかかわり 3. 意思決定と契約 4. 購入方法の多様化 5. 消費者問題 6. 消費者保護 7. 持続可能な社会をめざして(1) 8. 持続可能な社会をめざして(2) 9. 消費者市民社会	・消費生活の現状や家計と社会経済の関わりを理解し、消費者として主体的に判断し、行動できる力を身に付ける。 ・契約の原理と、多様な販売方法や支払い方法について理解する。 ・消費者被害の構造を知り、消費者を守る法律や支援制度について理解し、予防と対策の力を身に付ける。 ・持続可能な社会に向けた様々な取り組みを理解し、一消費者としての判断力を養う。	○	○	○
			7	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	「ホームプロジェクト」と「学校家庭クラブ活動」の意義を把握し、生活の中から課題を見つけ、自ら解決に向けて行動する。	○	○	○
第2学期	10	食生活 ー楽しく安全に食べるー	1. 食べることを通して 2. 栄養と食品 3. 栄養素のはたらきと食品の栄養 4. 食品の選択 5. 食品の取り扱い 6. 食品の安全性 7. 豊かな食生活の背景には 8. 食事をつくる	・食生活の役割を認識し、食生活の実情を考える。 ・健康な食生活を営むために必要な栄養や食品などの基本的な知識を理解し、よりよい食生活を実現する。 ・食の安全性について問題意識をもち、食品表示、添加物および管理方法理解し、実践力を養う。 ・食料自給率や食品ロスなどの社会問題にふれ、持続可能性について考えを深める。 ・調理実習を行い、調理の基本技術を身に付ける。	○	○	○	
			子ども ー子どもと生きるー	1. 子どもと出会う 2. 子どもの心とからだの発達 3. 子どもの生活 4. 子どもと遊び 5. 子どもの育つ環境と社会 6. 子どもの権利と福祉 7. 子どもと共に育つ	・子どもをとりまく環境や子育ての現状・課題について考え、解決法を探る。 ・子どもの発達に応じた特徴を理解する。 ・子どもの最善の利益実現に向けて、家族や地域、社会が担う役割や支援のあり方について考える。 ・親になることの意味や子どもを産み育てていくために必要なことを考え、未来に向けて共に育つ姿勢を養う。	○	○	○
	12	高齢者 ー高齢者と生きるー	1. 高齢者を知る 2. 高齢社会の現状と課題 3. 高齢者の尊厳と自立の支援 4. 高齢者を支える制度としくみ	・高齢者の心身の特徴を理解する。 ・高齢社会の現状と課題について理解する。 ・高齢者を支える制度としくみを理解し、地域共生社会について考えを深める。	○	○	○	
			社会福祉 ー支えあい共に生きるー	1. 生活を支える福祉と社会保障制度 2. 共生社会の実現に向けて	・社会福祉と社会保障制度について理解し、その課題と背景について考えを深める。 ・共に支え合う社会の実現のために、個人や集団の役割やつながりについて考える。	○	○	○
第3学期	1	衣生活 ー選んで着るー	1. 衣生活を見直す 2. 衣服の機能と着装 3. 衣服の材料と成り立ち 4. 衣服の管理 5. 安心して衣服を着るために 6. いろいろな人が着る衣服 7. これからの衣服	・衣生活に関心をもち、衣服選択の重要性を理解する。 ・健康で快適な衣生活を営むための材料や構造について理解する。 ・環境負荷の少ない購入・管理・廃棄についての問題意識をもち、判断する力を身に付ける。 ・衣服修繕や製作実習を通して基礎的な裁縫技術を習得する。	○	○	○	
			2	住生活 ー人間らしく住むー	1. 住まいの選択 2. ライフスタイルと住まい 3. さまざまな家族・さまざまな住まい 4. 住まいの安全・安心 5. 住環境の安全・安心 6. 環境共生の今・昔 7. 住まいづくり・まちづくりへの参加	・住まいの役割や機能について理解する。 ・間取りや立地などの基礎知識を身に付け、ライフスタイルに合った住まい選びの力を養う。 ・住環境が与える健康への影響を理解し、より安全で快適な住まい方についての基礎知識を身に付ける。 ・時代や地域による住宅設備の違いに着目し、環境負荷の少ない住まいを考える。	○	○
	3				○	○	○	